

令和7年度第1回沿岸広域振興圏地域連携懇談会における御意見に係る対応状況

開催日時：令和7年6月24日(火) 午後2時30分～午後4時30分

開催場所：釜石地区合同庁舎 4階 大会議室

令和7年度第1回沿岸広域振興圏地域連携懇談会における御意見のうち、当日回答した内容から進展等があったものについて、対応状況は以下のとおりです。

| No. | 御 意 見 | 対 応 状 況 | |
|-----|---|----------------|---|
| | | 所 管 | 内 容 |
| 1 | <p>【伊藤 実知子 構成員】 三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルのガイドブックが整えられていいと思う。</p> | 経営企画部 産業振興室 | <p>いわて三陸へのアクセス検索機能を付加した折り畳み式の周遊ガイドを7月に完成させ、以降の県外イベント（首都圏や北海道等）において当該ガイド活用の上、観光PRを図る等、沿岸地域への誘客に向けた取組を進めているところです。</p> <p>また、道の駅や花巻空港、高速道路サービスエリア等に配架させていただいているますが、追加補充を強く求められる等、当該ガイドへの期待・評価は非常に高い状況となっております。</p> <p>初回制作分の残部が少なくなっているため、現在、増刷を検討しておりますが、増刷後は仙台空港や鉄道の主要駅等に配架できるよう関係機関と調整を図り、引き続き、沿岸地域への更なる誘客と周遊に向けた取組を強力に推し進めてまいります。</p> <p><多言語版周遊ガイドブック「地図で巡るいわて三陸」の特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 携帯性・利便性を有するポケットサイズ ② 日英2か国語表記（電子版は10言語対応） ③ QRコードで現在地から目的地までのアクセス検索可 ④ みちのく潮風トレイル、三陸鉄道利用のモデルコースやグルメ情報を掲載 |
| 2 | <p>【大山 幸真 構成員】 地域おこし協力隊の任期後の定住率の低さが課題だと思っている。県主催の協力隊員が一堂に会して交流するイベントは本質的な定住、定着に繋がるのか疑問。</p> | 経営企画部 企画推進課 | <p>沿岸広域振興局では、今年度、地域おこし協力隊の任期終了後の働き方を考え、定着を推進することを目的として、複数の事業で生計を組み立てる「複業・パラレルワーク」をテーマにした研修・交流会を開催しました。</p> <p>来年度は、いただいた御意見や市町村実務者によるミーティングでの意見を踏まえ、隊員の募集・受入態勢の整備を行うための市町村向けモデル事業の実施を検討しています。</p> |

| No. | 御 意 見 | 対 応 状 況 | |
|-----|---|----------------|---|
| | | 所 管 | 内 容 |
| 3 | <p>【佐々木 武 構成員】 (漁業に関して) やはり若手が必要だし、仲間がほしいと思う。漁師になりたいと言う人は来るが、いざ漁師になろうとすると住むところがなかつたり、補助制度などもどこに問合わせればいいのかわからない。</p> | 水産部 | <p>県では、漁業担い手育成基金や各市町村と連携し、漁業就業奨励金や住居費補助の支援に関する情報提供を行っているほか、沿岸広域振興局では、就業希望者の要望に応じたオーダーメイド型漁業体験を実施し、昨年度体験された方1人が今年度から漁業就業したところです。</p> <p>引き続き新規漁業就業者の確保・育成を進めていきます。</p> |
| 4 | <p>【高橋 奈々美 構成員】 個人やNPOでも手を上げやすい助成金、補助金等があればいいと思う。考えていることは色々あると思うので、補助制度などが何かあれば教えてほしい。</p> | 経営企画部 企画推進課 | <p>県では、若者のグループ自らが地域の課題解決や地域の元気創出に資する事業を実施することへの支援を目的として、若者グループの独創的、先進的な事業に対する「いわて若者チャレンジ補助」を行っています。また、公益財団法人さんりく基金においては、地域の農林水産物や観光資源の特性を生かした新商品や、体験学習プログラムの開発等を行う事業者等に対する助成を行っています。</p> <p>沿岸広域振興局としても、こうした補助・助成制度の活用が広がるよう、様々な機会を捉えて周知を行っていきます。</p> |
| 5 | <p>【八田 浩希 構成員】 アンコンシャスバイアスは解消できるものではなく、意識し続ける仕組みが必要。そしてそこから、働きやすさだけでなく、働き甲斐のある場所づくりも両輪でやっていく必要がある。</p> | 経営企画部（特命） | <p>沿岸広域振興局では、若者・女性に選ばれる地域づくりを目指して、圏域内の市町村・関係機関と連携し、地域内の企業におけるアンコンシャスバイアスやジェンダーギャップについて、気づきを促すワークショップ等の開催を検討しています。</p> |
| 6 | <p>【早川 輝 構成員】 子供や若者の声を聞き続けるということも必要。</p> | 経営企画部 企画推進課 | <p>県では、こども基本法制定の趣旨等を踏まえ、より若い世代（小学生～高校生）の意見・ニーズを把握するため、子ども向けにアンケートを行う「こどもモニター」制度の実施や、パブリック・コメントのこども向け「やさしい版」作成の試行などに今年度から新たに取り組んでいます。</p> <p>沿岸広域振興局では、当モニター制度を活用して「地域で生活し続けること」についての子ども向けアンケートを実施することとしており、今後、アンケート結果の施策への反映を検討していきます。</p> |